◇┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳┳◆

**食科協かわら版　No.370　（2022年度No.48）**　 　2022/12/9

食の行政情報ならびに食中毒情報をお伝えする食科協のメールマガジン

食中毒情報は１回限り　行政情報は原則2回の掲載で削除します

新しいものは*NEW*マークがついております　期限設定のある記事は　期限終了まで掲載

**青字をスクロール　Ctrlキーを押しながらクリック　もしくは右クリックでハイパーリンクを開く**

◇┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻┻◆



**息の白い季節**

|  |  |
| --- | --- |
| **目次** | **ページ** |
| 1. [**食科協関係**](#食科協関係) | **1** |
| **2**[**厚生労働省関係**](#厚生労働省関係) | **2-9** |
| **3**[**食品安全委員会関係**](#食品安全委員会関係) | **9-10** |
| **4**[**農水省関係**](#農水省関係) | **10-19** |
| **5**[**消費者庁関連**](#消費者庁関連)**リコール情報** | **19-21** |
| **6**[**食中毒・感染症**](#食中毒・感染症)  **細菌性食中毒→ウイルス性食中毒→寄生虫→自然毒→感染症→違反品の回収→他**  **各項目発生順で記載　菌種については月により掲載位置が変動しています** | **21-27** |

**１．****[食科協関係](#食科協関係)**

12月02日　かわら版369号・かわら版ニュース＆トピックス291号を発行

12月06日　かわら版ニュース＆トピックス292号を発行

12月09日　かわら版370号・かわら版ニュース＆トピックス293号を発行

**２.****[厚生労働省関係](#厚生労働省関係)**　<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

**★***Link***傍聴・参加が可能な審議会等の会議一覧　ご案内しきれないときもございます**<https://www.mhlw.go.jp/topics/event/open_doors.html>

**★***Link***インフルエンザ（総合ページ）**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html>

**★***Link***インフルエンザの発生状況**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou01/houdou.html>

**★***Link***インフルエンザに関する報道発表資料 2022/2023シーズン**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou01/houdou_00010.html>

**★***Link***インフルエンザ流行状況レベルマップ**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/tokuteisessyu_iryou_00003.html>

**★***Link***副反応疑い報告の状況について（とても詳しい資料です）**

**厚生科学審議会 (予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/shingi-kousei_284075.html>

**★***Link***2022年3月31日　国立国際医療研究センター　COVIREGI-JPダッシュボード**

COVID-19 レジストリ研究　“ダッシュボード” 本データの注意点  
<https://www.ncgm.go.jp/pressrelease/2021/20220331.html>  
ダッシュボード  
<https://app.powerbi.com/view?r=eyJrIjoiNGJlMmZmNDctMDk0NC00MjkwLTk0NDgtYmM1MGFkYjNhN2RiIiwidCI6IjZmOGFmOWFkLTU2NDctNGQ2My1hYjIxLWRiODk0NTM3MzJmNyJ9>  
NCGM COVID-19 治療フローチャート（中等症以上成人)  
<https://www.ncgm.go.jp/covid19/pdf/20220322NCGM_COVID-19_Flow_chart_v5.pdf>

**■***NEW***オーストリアから輸入される牛肉等の輸入に関する措置の見直し案に関する御意見の募集について　2022/12/8**

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220267&Mode=0>

　受付開始日時 2022年12月8日0時0分

受付締切日時 2023年1月6日23時59分

**■***NEW***スペインから輸入される牛肉等の輸入に関する措置の見直し案に関する御意見の募集について　2022/12/8**

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220266&Mode=0>

受付開始日時 2022年12月8日0時0分

受付締切日時 2023年1月6日23時59分

**■***NEW***令和4年12月12日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会新開発食品調査部会（オンライン会議）の開催について　2022/12/5**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29482.html>

**■***NEW***2022年11月４日　薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会器具・容器包装部会（オンライン会議）　議事録　2022/12/2**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28978.html>

**■***NEW***薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会（オンライン会議）の開催について　2022/12/2**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29465.html>

**■「新たな化学物質規制を踏まえた自律的な化学物質管理促進セミナー」の動画配信について　2022/12/1**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_27800.html>

　　厚生労働省では、令和４年９月～10月に、委託事業（委託先：みずほリサーチ＆テクノロジーズ）により、「新たな化学物質規制を踏まえた自律的な化学物質管理促進セミナー」（計３回）を実施いたしました。

　　本セミナーは、労働安全衛生法の新たな化学物質規制や化学物質のリスクアセスメント等についての理解を深めて頂くことを目的に、各回ごとに異なるプログラムを設け、開催日には、多くの方々にライブ配信をご視聴いただきました。

　　今般、このセミナーをご都合の良い時に申込不要で無料視聴頂けるよう、動画配信を開始しましたので、以下のとおり、セミナーの概要や視聴に関する情報をご案内いたします。

**セミナーの概要**

　　令和４年２月及び５月に労働安全衛生法の関係政省令が改正されたことにより、職場における化学物質管理は、以下のように変わります。

　　・ラベル・SDSの伝達や、リスクアセスメントの実施義務対象物質が大幅に増加

　　・濃度基準値設定物質のばく露濃度を基準値以下とすることが義務付けられる

　　・化学物質を製造・取り扱う労働者に、適切な保護具を使用させることが求められる

　　・自律的な管理に向けた実施体制の確立が求められる

　　本セミナーでは、以下の３つのプログラムを設け、新たな化学物質規制の概要、SDSの作成・確認、リスクアセスメントの方法、等について解説しました。セミナーの詳細については、下記リンク先のPDFをご確認ください。

　　【第１回】リスクアセスメントを実施する事業者（初心者）向けプログラム

　　　　ラベル・SDSの見方・活用方法、これから取り組む化学物質のリスクアセスメントなど

　　【第２回】ラベル・SDSを提供する事業者向けプログラム

　　　　SDS制度及びGHS分類ガイダンスを活用したSDS・ラベル作成、GHS混合物分類判定システム

　　　（NITE-Gmiccs）の使用方法など

　　【第３回】リスクアセスメントを実施する事業者（一般）向けプログラム

　　　　ラベル・SDSの効果的な活用方法、事例を踏まえた効率的・実効的なリスクアセスメントの方法など

　　【全回共通】新たな化学物質規制に関する説明（厚生労働省）

　　セミナーのご案内パンフレットはこちらから

<https://www.mizuho-rt.co.jp/seminar/info/2022/sds-ra/pdf/sds-ra.pdf>

**視聴用URL等**

セミナーの動画は、独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所のウェブサイト上にて、令和５年２月末までご視聴いただけます（お申込みは不要）。視聴用URLは以下のとおりです。なお、資料及び講演内容は、セミナーが行われた令和４年10月時点のものです。

　セミナー動画はこちらから

（※独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所のページへ移動します）

[https://www.jniosh.johas.go.jp/groups/ghs/movies.html#mizuhoSeminar](https://www.jniosh.johas.go.jp/groups/ghs/movies.html%23mizuhoSeminar)

**お問い合わせ先**

　　本セミナーの動画配信に関するご質問は、委託先のみずほリサーチ＆テクノロジーズへお問い合わせ下さい。なお、ご視聴者の機材によって対応が異なることから、オンライン接続や音量調整等、技術的な質問については、お答えしかねる旨、ご了承ください。

**受託者および問い合わせ先**

みずほリサーチ＆テクノロジーズ株式会社

　サステナビリティコンサルティング第２部 環境リスクチーム

〒101-8443 東京都千代田区神田錦町 2-3 (令和４年12月18日まで）

〒100-8176 東京都千代田区大手町1-5-5（令和４年12月19日以降）

e-mail: 　[env\_risk\_seminar@mizuho-rt.co.jp](mailto:env_risk_seminar@mizuho-rt.co.jp)

TEL: 03-5281-5288（受付時間 [平日]10:00～17:00）

※テレワーク推進中につき、極力電子メールでのお問い合わせをお願い申し上げます。

**〔ご参考〕職場における化学物質管理に関する相談窓口**

　　厚生労働省では、職場における化学物質管理に関する相談窓口を設置しており、ラベル・SDS、リスクアセスメントの方法、新たな化学物質管理の制度の内容、等に関するご質問を受け付けています。

　　化学物質管理に関する相談窓口・訪問指導のご案内

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000046255.html>

**■輸入食品に対する検査命令の実施（ベトナム産カエル、その加工品）　2022/12/1**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29389.html>

　　本日、以下のとおり輸入者に対して、食品衛生法第26条第３項に基づく検査命令（輸入届出ごとの全ロットに対する検査の義務づけ）を実施することとしたので、お知らせします。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション

自動的に生成された説明

**エンロフロキサシンについて**

１．動物用医薬品（合成抗菌剤）

２．許容一日摂取量（人が一生涯毎日摂取し続けても、健康への影響がないとされる一日当たりの摂取量）は、体重１kg当たり0.002mg/日です。

３．現実的ではありませんが、体重 60 kgの人が、エンロフロキサシンが0.07 ppm残留したカエルを毎日 1.7 kg摂取し続けたとしても、一生涯の平均的な摂取量が許容一日摂取量を超えることはなく、健康に及ぼす影響はありません。

**フラゾリドンについて**

１．動物用医薬品（合成抗菌剤）

２．国際機関等において許容一日摂取量が設定されていないことから、食品中に不検出とする基準を設定しています。

**ベトナム産カエルの違反の内容**

１．品名：冷凍養殖カエル（FROZEN CLEANED FROG）

　　　 輸入者：株式会社　ＳＥＮＫＹＵ

輸出者：KING AGRO CO., LTD.

包装者：HUNG PHONG CO., LTD

届出数量及び重量：300 CT、3，600.00 kg

検査結果：エンロフロキサシン 0.07 ppm 検出(基準：含有してはならない)

　　　　　 フラゾリドン 0.037 ppm 検出(基準：不検出)

　　　届出先：東京検疫所

　　　日本への到着年月日：令和４年９月８日

　　　違反確定日：令和４年９月28日

貨物の措置状況：一部販売済、残余保管

２．品名：剥き冷凍養殖カエル（FROZEN FROG LEGS）

輸入者：ＨＯＡ　ＭＡＩ株式会社

　　　 製造者：MINH PHUONG SEAFOOD CO.,LTD

届出数量及び重量：839 CT、8,390.00 kg

検査結果：エンロフロキサシン 0.04 ppm 検出(基準：含有してはならない)

　　　　　 フラゾリドン 0.008 ppm 検出(基準：不検出)

届出先：東京検疫所

日本への到着年月日：令和４年11月５日

違反確定日：令和４年11月29日

貨物の措置状況：一部販売済、残余保管

　　参考：ベトナム産カエルの輸入実績（令和３年４月１日から令和４年11月28日まで：速報値）

テーブル

自動的に生成された説明

**■令和４年11月11日　第88回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和４年度第18回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）議事録　2022/11/25**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29365.html>

**■「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（案）」（農薬等（エンラマイシン等12品目）の残留基準の改正並びにニタルソン及びロキサルソン試験法等の設定及び酢酸トレンボロン試験法の改正）及び「食品衛生法第十三条第三項の規定により人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質の一部を改正する件（案）」に関する御意見の募集について　2022/11/21**

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220241&Mode=0>

受付開始日時 2022年11月21日0時0分

受付締切日時 2022年12月20日23時59分

**■***NEW***食品中の放射性物質の検査結果について（１３１８報）　2022/12/6**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29445.html>

**■***NEW***食品中の放射性物質の調査結果（令和４年２～３月調査分）　2022/12/2**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000205937_00019.html>

**～放射線量は基準値の設定根拠である年間線量１ミリシーベルトの0.1％程度～**

厚生労働省は、国立医薬品食品衛生研究所に委託して、令和４年２月から３月に、全国15地域で、実際に流通する食品を購入し、食品中の放射性セシウムから受ける年間放射線量を推定しました。

　調査の結果、食品中の放射性セシウムから、人が１年間に受ける放射線量は、0.0005～0.0008ミリシーベルト／年と推定され、これは現行基準値の設定根拠である年間上限線量１ミリシーベルト／年の0.1％程度であり、極めて小さいことが確かめられました。

　なお、放射性セシウム（Cs-134とCs-137の合計）濃度が0.5Bq/kg以上となった試料については、放射性ストロンチウム（Sr-90）及びプルトニウム（Pu-238、Pu-239＋240）も調査することとしています。

今回、調査対象となる放射性セシウム濃度が0.5Bq/kg以上の試料はありませんでした。

　 厚生労働省では、今後も継続的に同様の調査を行い、食品の安全性の検証に努めていきます。

参考：　東京電力福島第一原発の事故に由来して、食品中の放射性物質から長期的に受ける線量の大半は、放射性セシウムによるものとされています。資料

　（別添）　食品中の放射性セシウムから受ける放射線量の調査結果　（令和４年２～３月調査分）（PDF：366KB）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11134000/001017420.pdf>

**■食品中の放射性物質の検査結果について（１３１７報）　2022/11/29**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29302.html>

　２　緊急時モニタリング又は福島県の検査結果

　　 ※ 基準値超過　１件

　　No. 37 福島県　　イノシシ　　 （Cs ： 140 Bq / kg )　いわき市

**■原子力災害対策特別措置法第20条第２項の規定に基づく食品の出荷制限の解除　2022/11/25**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29324.html>

　　本日、原子力災害対策本部は、群馬県に対し、原子力災害対策特別措置法に基づき出荷制限の指示がなされていた、吾妻川のうち岩島橋から東京電力株式会社佐久発電所吾妻川取水施設までの区間（支流を含む。）において採捕されたイワナ及びヤマメ（養殖により生産されたものを除く。）について、解除を指示しました。

１　群馬県に対して指示されていた出荷制限のうち、吾妻川のうち岩島橋から東京電力株式会社佐久発電所吾妻川取水施設までの区間（支流を含む。）において採捕されたイワナ及びヤマメ（養殖により生産されたものを除く。）について、本日、出荷制限が解除されました。

（１）本日付けの原子力災害対策本部から群馬県への指示は別添１のとおりです。

（２）群馬県の申請は別添２のとおりです。

２　なお、原子力災害対策特別措置法の規定に基づく食品の出荷制限及び摂取制限の指示の一覧は、参考資料のとおりです。

【参考１】 原子力災害対策特別措置法 －抄－

（原子力災害対策本部長の権限）

第２０条 （略）

２ 原子力災害対策本部長は、当該原子力災害対策本部の緊急事態応急対策実施区域及び原子力災害事後対策実施区域における緊急事態応急対策等を的確かつ迅速に実施するため特に必要があると認めるときは、その必要な限度において、関係指定行政機関の長及び関係指定地方行政機関の長並びに前条の規定により権限を委任された当該指定行政機関の職員及び当該指定地方行政機関の職員、地方公共団体の長その他の執行機関、指定公共機関及び指定地方公共機関並びに原子力事業者に対し、必要な指示をすることができる。

３～１０ （略）

【参考２】

「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」（原子力災害対策本部：最終改正 令和４年３月30日）

（別添１）（PDF:110KB）<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/001015292.pdf>

（別添２）（PDF:1,004KB）<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/001015293.pdf>

（参考資料）（PDF:1,353KB）<https://www.mhlw.go.jp/content/11135000/001015294.pdf>

**■***NEW***食品安全情報（微生物）No.225/ 2022（2022.12.7）　2022/12/7**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202225m.pdf>

**目次**

**【米国食品医薬品局食品安全応用栄養センター（US FDA CFSAN）】**

1. 米国食品医薬品局（US FDA）が食品由来アウトブレイクへの対応を紹介する動画を公開

**【米国疾病予防管理センター（US CDC）】**

1. エノキダケに関連して複数州にわたり発生しているリステリア（ Listeria　monocytogenes）感染アウトブレイク（2022 年 11 月 22 日付更新情報）

2. ピーナッツバターに関連して複数州にわたり発生したサルモネラ（Salmone　Senftenberg）感染アウトブレイク（2022 年 7 月 27 日付最終更新）

**【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】**

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

**【Eurosurveillance】**

1. 2022 年世界実地疫学デー：公衆衛生上の脅威に備えてヘルスシステム（保健医療制度）の態勢および対応を強化するため実地疫学者の能力向上を支援

2. 喫飲用生乳（RDM）に関連して発生し、高度な病原体性状解析法の迅速な利用により終息した志賀毒素産生性大腸菌（STEC）O157:H7 感染アウトブレイク（イングランド、2017 年 8～10 月）

**【英国食品基準庁（UK FSA）】**

1. 2001～2020 年に英国産市販鶏肉から検出されたカンピロバクターの抗菌剤耐性（AMR）の傾向

**【ProMED-mail】**

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報（33）（32）

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.25/ 2022（2022.12.7）　2022/12/7**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202225c.pdf>

**＜注目記事＞**

**【EC】 食品接触物質：欧州で数千の違法で有害な製品が遮断及びリコールされた**

欧州委員会は、EU 農業食品偽装ネットワークとともに、竹やその他の植物由来の添加物を含むプラスチック製の食品接触物質（FCM）に関する協調的な執行措置の結果を発表した。プラスチック FCM に使用できるのは認可された物質のみであり、認可されていない竹やその他の植物由来の添加物の使用は違法となる。さらに違法製品の中には、環境に良い製品であるかのように誤解を招く不当表示をしているものもある。度重なる警告通知にもかかわらず販売が継続されていたため、21 ヵ国が参加して EU 規模で違法製品を特定するための執行行動が実施された。

**＊ポイント**： EU で 2 年前くらいから話題になっていた問題です。100%竹のみで製造された製品であれば合法なのですが、粉末にしてプラスチック材に添加された場合には違法となります。現在、EU では食品接触物質に関する規制の見直しを行っており、そのパブリックコメントに関する記事も今号で紹介しています。

**【FDA】 FDA は動物細胞培養技術からのヒト用食品のイノベーションを促す**

米国食品医薬品局（FDA）は、培養した動物細胞から作られたヒト用食品の最初の市販前協議が完了したことを発表する。UPSIDE Foods 社が鶏の培養細胞から製造した食品の市販前協議のために提出した情報を FDA が評価し、現時点では同社の安全性に関する結論について疑問はないと結論した。動物の培養細胞から製造した食品については、細胞バンクと細胞の培養から収穫前までを FDA が、その後の収穫から加工、ラベル表示の監視を米国農務省（USDA）が所管しており、認可制にはしないものの、製造・販売業者は市販前の協議や検査に応じて FDA と USDA が提示する要件を全て満たす必要がある。

**＊ポイント**： 細胞ベースの特定の食品の販売について米国 FDA が初めて公式見解を発表しました。認可制にせずに、事業者と徹底して協議をするというやり方は米国らしいと思います。FDA は新規技術の導入を推奨しており、市販前協議に向けて準備を行う事業者向けガイダンスも発行予定だと述べています。USDA も昨年 9 月に表示制度の検討を始めると発表し意見や情報を募集していたので、そのうち表示要件も公表されるでしょう

**【EFSA】 フタル酸エステル類と他の可塑剤：EFSA の評価を導く計画**

欧州食品安全機関（EFSA）は、食品接触物質に使用される可塑剤物質のハザード評価のための科学的プロトコルを発表した。対象の可塑剤には、フタル酸エステル類、その構造類似物質、フタル酸エステル類に代替して使用される物質が含まれる。

**＊ポイント**： EFSA はフタル酸エステル類と他の可塑剤の再評価を計画しており、今 5 月に、リスク評価が最後に実施された年を指標に対象物質の優先順位付けを行っていました（評価年が古い順に優先度を高・中・小に分類）。これまでに暴露評価のプロトコルも作成され、ハザード評価のプロトコルも今回準備されたことから、今後、暴露評価に必要なデータが揃い次第、優先度が高い物質から再評価が開始されるでしょう

**■***NEW***食品安全情報（化学物質）No.25/ 2022（2022.12.7）　別添　2022/12/7**

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202225ca.pdf>

**● ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR：Bundesinstitut fur Risikobewertung）**

<https://www.bfr.bund.de/en/home.html>

**１．ゲノム編集と CRISPR/Cas9 システムに関する FAQ 更新**

FAQ on Genome Editing and CRISPR/Cas9

Updated BfR FAQ dated 27 October 2022

<https://www.bfr.bund.de/en/faq_on_genome_editing_and_crispr_cas9-199929.html>

ゲノム編集とは、細胞の遺伝物質（ゲノム）に標的を定めた改変を可能にする新しい手段の総称である。特に、CRISPR/Cas9 システムの適用可能性はすでに多くの文献に記載されている。ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)は、消費者の健康保護のために、これらの開発を体系的に監視している。この FAQ では、BfR はゲノム編集、特に CRISPR/Cas9 の手法について最も重要な質問に答えている。

 2016 年 11 月、連邦政府は「新しい遺伝子工学技術の分類と管理」というタイトルの声明を発表した。(ドイツ語)

<http://dip21.bundestag.de/dip21/btd/18/103/1810301.pdf>

 欧州委員会の科学アドバイザーグループは 2017 年 4 月に農業バイオテクノロジーの　新技術の評価を発表した。

<http://ec.europa.eu/research/sam/pdf/topics/explanatory_note_new_techniques_agricultural_biotechnology.pdf>

 遺伝子工学技術としてのゲノム編集の法的ステータスは 2018 年 7 月に欧州司法裁判所(ECJ)の判決で明らかにされた：

<http://curia.europa.eu/juris/liste.jsf?language=en&td=ALL&num=C-528/16>

 新しい突然変異誘発技術で得た食品・飼料植物製品の検出へのアプローチは、GMO 研究所欧州ネットワーク(ENGL)が分析している。

<http://gmo-crl.jrc.ec.europa.eu/doc/JRC116289-GE-report-ENGL.pdf>

**3.****[食品安全委員会関係](#食品安全委員会関係)**　<https://www.fsc.go.jp/>

**■***NEW***食品安全委員会（第882回）の開催について　2022/12/8**

**最近、発表が遅く、締め切りが早くなっております。参加をご希望の場合は、各自ご確認ください**

標記会合を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本会合については、傍聴者を入れずに開催いたしますが、本会合の様子については、下記４のとおり、web上で動画配信することといたしました。

議事録につきましては、後日、食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>） に掲載いたします。大変御迷惑をお掛けいたしますが、ご理解のほど、何卒よろしくお願いいたします。

記

１．開催日時：令和4年12月13日（火）　１４：００〜

２．開催場所：食品安全委員会 大会議室　（港区赤坂５−２−２０ 赤坂パークビル２２階)

３． 議事

（１）食品安全基本法第２４条の規定に基づく委員会の意見の聴取に関するリスク管理機関からの説明について

　　　・添加物 １品目（厚生労働省からの説明）

　　　　亜塩素酸水

　　　・動物用医薬品 １品目（農林水産省からの説明）

　　　　ツラスロマイシン及びケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤（ドラクシンKP）

（２）動物用医薬品専門調査会における審議結果について

　　　・「クロステボル」に関する審議結果の報告と意見・情報の募集について

　・「トリブロムサラン」に関する審議結果の報告と意見・情報の募集について

（３）食品安全基本法第２４条の規定に基づく委員会の意見について

　　　・農薬「インピルフルキサム」に係る食品健康影響評価について

　　　・農薬「セトキシジム」に係る食品健康影響評価について

　・農薬「ピカルブトラゾクス」に係る食品健康影響評価について

　・農薬「フルキサピロキサド」に係る食品健康影響評価について

　・農薬及び添加物「ジフェノコナゾール」に係る食品健康影響評価について

（４）その他

４．動画視聴について

：本会合の様子の動画視聴を希望される方は、12月12日（月）12時までに内閣府共通意見等登録システム（<https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-1176.html>にて、氏名所属、電話番号及びメールアドレスを御登録いただきますようお願いいたします。視聴をお申し込みいただいた方には、御登録いただいたメールアドレス宛てに、視聴に必要なURLを、12月13日（火）12時までに御連絡いたします。なお、当日の資料につきましては、同日14時までに食品安全委員会Webサイト

（<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>）に掲載いたします。

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/annai804.html>

<http://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/annai/> 　**←発表がない場合はこちらからご確認ください**

**会議の結果は下記から確認できます**

**★***Link***食品安全委員会　開催実績リンク　開催日時、配付資料、議事録等**

<https://www.fsc.go.jp/iinkai_annai/jisseki.html>

　<https://www.fsc.go.jp/iken-bosyu/pc1_hisiryou_muramidase_030512.html>

**■***NEW***令和５年度食品安全モニター募集のご案内　2022/12/1**

<https://www.fsc.go.jp/monitor/bosyu/2023monitor-bosyu.html>

　本日から、別添の募集要項及びチラシのとおり、令和５年度の食品安全モニターの募集を行います。

・募集要項「令和5年度食品安全モニター募集要項」[PDF:420KB]別ウインドウで開きます

<https://www.fsc.go.jp/monitor/bosyu/2023monitor-bosyu.data/2023bosyu-yoko_.pdf>

・チラシ「食品安全モニター募集中！」[PDF:780KB]別ウインドウで開きます

<https://www.fsc.go.jp/monitor/bosyu/2023monitor-bosyu.data/2023bosyu_chirashi_.pdf>

・内閣府共通意見等登録システムの令和５年度食品安全モニター応募フォーム別ウインドウで開きます（外部サイト）（募集要項をよくお読みの上、ご応募ください。応募締切は令和５年１月25日午後５時です。 ）

<https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-1369.html>

**■***NEW***食品安全関係情報更新（令和4年10月22日から令和4年11月4日）2022/11/22**

[https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?year=&from=struct&from\_year=2022&from\_month=10&from\_day=22&to=struct&to\_year=2022&to\_month=11&to\_day=4&max=100](https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?year=&from=struct&from_year=2022&from_month=10&from_day=22&to=struct&to_year=2022&to_month=11&to_day=4&max=100%20)

**４．****[農水省関係](C:\\Users\\chichi2\\AppData\\Roaming\\Microsoft\\Word\\農水省関係)**<https://www.maff.go.jp/>

**★***Link***ウクライナ情勢に関する農林水産業・食品関連産業事業者向け相談窓口**

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/sodan.html>

**■***NEW***鹿児島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について　2022/12/8**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221208.html>

　本日（12月8日（木曜日））、鹿児島県出水市の家きん農場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（今シーズン国内30例目）が確認されました。

なお、我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考えております。

現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあること、農家の方のプライバシーを侵害しかねないことから、厳に慎むよう御協力をお願いいたします。

1.農場の概要

所在地：鹿児島県出水市

飼養状況：約6.3万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月7日（水曜日））鹿児島県は、同県出水市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、当該農場に対し移動の自粛を要請するとともに農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該鶏について鳥インフルエンザの簡易検査を実施し陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月8日（木曜日））、当該鶏について遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***山形県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について　2022/12/8**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221208_1.html>

　本日（12月8日（木曜日））、山形県鶴岡市の家きん農場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（今シーズン国内29例目）が確認されました。

当該農場は、農家から通報があった時点から飼養家きん等の移動を自粛しています。

なお、我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考えております。

現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあること、農家の方のプライバシーを侵害しかねないことから、厳に慎むよう御協力をお願いいたします。

1.農場の概要

所在地：山形県鶴岡市

飼養状況：約2.7万羽（採卵鶏）

疫学関連農場：山形県庄内町（1農場、約4万羽）

2.経緯

（1）昨日（12月7日（水曜日））山形県は、同県鶴岡市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、当該農場に対し移動の自粛を要請するとともに農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該鶏について鳥インフルエンザの簡易検査を実施し陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月8日（木曜日））、当該鶏について遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***愛知県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/12/8**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221208_2.html>

　　本日（12月8日（木曜日））、愛知県豊橋市の家きん農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内31例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定しました。

1.農場の概要

所在地：愛知県豊橋市

飼養状況：約1000羽（あひる（あいがも））

疫学関連農場：愛知県豊橋市（1農場、約1000羽）

2.経緯

（1）昨日（12月7日（水曜日））、愛知県は、国内25例目（愛知県1例目）の周辺にある農場の状況を確認するため、同県豊橋市の農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該家きんについて鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月8日（木曜日））、当該家きんについて遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***鹿児島県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内24例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について　2022/12/7**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221207_4.html>

　鹿児島県出水市で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内24例目）について動物衛生研究部門が実施した遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることが確認されました。

また、当該高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

1.概要

（1）鹿児島県出水市の農場で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内24例目、12月4日疑似患畜確定)について、動物衛生研究部門（注）が実施した遺伝子解析の結果、高病原性と判断される配列が確認されました。

（2）これを受け、農林水産省は、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、当該家きんを高病原性鳥インフルエンザの患畜と判定しました。

（3）また、当該高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、動物衛生研究部門における検査の結果、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

**■***NEW***福島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/12/7**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221207_5.html>

　　本日（12月7日（水曜日））、福島県飯舘村の家きん農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内28例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定しました。

1.農場の概要

所在地：福島県飯舘村

飼養状況：約10万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月6日（火曜日））、福島県は、同県飯舘村の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該家きんについて鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月7日（水曜日））、当該家きんについて遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***兵庫県たつの市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内9例目）に係る移動制限の解除について　2022/12/7**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221207_3.html>

　兵庫県は、同県たつの市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内9例目）に関し、発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年12月7日（水曜日）午前0時（12月6日（火曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）兵庫県は、令和4年11月13日に同県たつの市の家きん農場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内9例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）兵庫県は、同県たつの市で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年11月26日0時に発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、兵庫県は、国内9例目の移動制限区域について、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和4年11月15日の翌日から起算して21日が経過する令和4年12月7日（水曜日）午前0時（12月6日（火曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**■***NEW***鹿児島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/12/7**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221207.html>

　　本日（12月7日（水曜日））、鹿児島県出水市の家きん農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内27例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定しました。

1.農場の概要

所在地：鹿児島県出水市

飼養状況：約6万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月6日（火曜日））、鹿児島県は、同県出水市の農場から、家きんの異状がみられる旨の通報を受けて、農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該家きんについて鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月7日（水曜日））、当該家きんについて遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***鹿児島県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内23例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について　2022/12/6**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221206_3.html>

　　鹿児島県出水市で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内23例目）について動物衛生研究部門が実施した遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることが確認されました。

また、当該高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

1.概要

（1）鹿児島県出水市の農場で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内23例目、12月2日疑似患畜確定)について、動物衛生研究部門（注）が実施した遺伝子解析の結果、高病原性と判断される配列が確認されました。

（2）これを受け、農林水産省は、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、当該家きんを高病原性鳥インフルエンザの患畜と判定しました。

（3）また、当該高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、動物衛生研究部門における検査の結果、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

**■***NEW***チェコからの豚肉等の一時輸入停止措置について　2022/12/6**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221206_6.html>

　　農林水産省は、12月3日（土曜日）にチェコからの豚肉等の一時輸入停止措置を講じました。

1.経緯

チェコの野生イノシシにおいて、アフリカ豚熱（ASF）の発生が確認された旨、チェコ家畜衛生当局から公表されました。

2.対応

本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年12月3日（土曜日）にチェコからの豚肉等の輸入を一時停止（※）しました。

（参考）生きた豚については、2国間で輸入条件が設定されていないため、従前より輸入できません。

※発生国又は地域から生きた豚、豚肉等の輸入を停止するのは、我が国で飼養されている生きた豚がウイルスに感染することを防止するためであり、食品衛生のためではありません。

なお、チェコからの豚肉等の輸入実績はありません（2019年～2021年）。

**■***NEW***ペルーからの家きん肉等の一時輸入停止措置について　2022/12/6**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221206_5.html>

**農林水産省は、12月2日（金曜日）にペルーからの家きん肉等の一時輸入停止措置を講じました。**

**1.経緯**

**ペルーの家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザ（H5亜型）の発生が確認された旨、ペルー家畜衛生当局から国際獣疫事務局（OIE）に通報がありました。**

**2.対応**

**本病の我が国への侵入防止に万全を期すため、令和4年12月2日（金曜日）にペルーからの家きん肉等の輸入を一時停止（※）しました。**

**（参考）生きた家きんについては、2国間で輸入条件が設定されていないため、従前より輸入できません。**

**これまでの生きた家きん、家きん肉等の輸入停止措置の状況等については、以下のページより確認いただけます。**

**動物検疫所：**<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html>

**■***NEW***EPAを利用するための原産地証明書が取得しやすくなりました！　2022/12/6**

<https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/keizai/221206.html>

　EPAを利用して青果物を輸出する際の、原産地証明書の発給手続を簡素化しました。

【経済産業省と同時発表】

1.発給手続(青果物)

EPA特恵税率を利用して日本産品を輸出するためには、輸出業者は、日本商工会議所から、輸出産品が日本原産であるとの原産品判定を受けて、原産地証明書の発給を受ける必要があります

この原産地証明書の発給手続が、青果物輸出について簡素化されました。

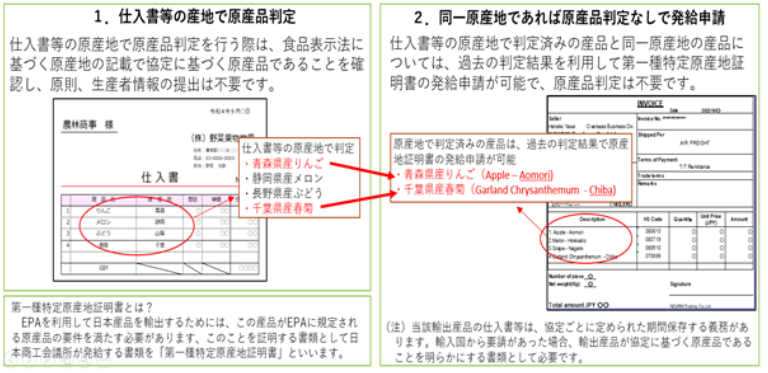
2.簡素化後の手続

これまでは、日本原産であるとの原産品判定に当たって、輸出業者は、署名入りの生産証明書又は輸出業者が青果物の購入先から入手した仕入書等を日本商工会議所に提出することが求められ、仕入書等の場合も生産者の氏名や住所などの生産者情報を併せて提出することが必要でした

今後は、仕入書等を活用する場合、これまで必要とされていた生産者情報の提出が不要となり県名等の原産地情報の記載があれば、日本原産であるとの原産品判定が可能であるとされました

なお、2回目以降の輸出において、一度、日本原産であると判断された産品と同一の原産地の産品であれば、再度の原産品判定を行うことなく、過去の判定結果を利用して原産地証明書の発給申請が可能です。

＊対象品目は、HSコードの7類（野菜）、8類（果実）、9類（茶等）、10類（コメ等穀物）及び11類（米粉等）。



**3.EPA利用相談窓口について**

**原産地規則をはじめEPAが多様化するなかで、EPA利用に際して生じる様々な疑問、質問、御意見を受け付けるために、EPAの利用を専門とする相談窓口を設置しております。農林水産物・食品の輸出におけるEPAの利用に当たって、わからないことや困っていることがありましたらお気軽にご相談ください。**

**EPA利用相談窓口 URL：**<https://www.maff.go.jp/j/kokusai/renkei/fta_kanren/epa_n.html>

**EPA利用相談窓口メールアドレス：**[epariyousoudan@maff.go.jp](mailto:epariyousoudan@maff.go.jp)

**お問合せ先輸出・国際局EPA利用促進チーム　担当者：村瀬、中杉、藤井、松井**

**代表：03-3502-8111（内線3473）　ダイヤルイン：03-6744-0245**

**■***NEW***佐賀県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について　2022/12/6**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221206.html>

　本日（12月6日（火曜日））、佐賀県武雄市の家きん農場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（今シーズン国内26例目）が確認されました。

当該農場は、農家から通報があった時点から飼養家きん等の移動を自粛しています。

なお、我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考えております。

現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあること、農家の方のプライバシーを侵害しかねないことから、厳に慎むよう御協力をお願いいたします。

1.農場の概要

所在地：佐賀県武雄市

飼養状況：約3万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月5日（月曜日））佐賀県は、同県武雄市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、当該農場に対し移動の自粛を要請するとともに農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該鶏について鳥インフルエンザの簡易検査を実施し陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月6日（火曜日））、当該鶏について遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***北海道伊達市で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内6例目）に係る移動制限の解除について　2022/12/5**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221205_4.html>

　　北海道は、道内伊達市で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内6例目）に関し、発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年12月5日（月曜日）午前0時（12月4日（日曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）北海道は、令和4年11月7日に道内伊達市の養鶏場において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内6例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）北海道は、道内伊達市で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年11月30日午前0時に発生農場の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、北海道は、国内6例目の移動制限区域について、全ての発生農場の防疫措置が完了した令和4年11月13日の翌日から起算して21日が経過する令和4年12月5日（月曜日）午前0時（12月4日（日曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**■***NEW***和歌山県白浜町で発生した高病原性鳥インフルエンザ（国内8例目）に係る移動制限の解除について　2022/12/5**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221205_5.html>

　　和歌山県は、同県白浜町で確認された高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内8例目）に関し、発生農場から半径3km以内で設定している移動制限区域について、令和4年12月4日（日曜日）午前0時（12月3日（土曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

1.経緯及び今後の予定

（1）和歌山県は、令和4年11月11日に同県白浜町の家きん飼養施設において高病原性鳥インフルエンザ（今シーズン国内8例目）が発生したことを受け、家畜伝染病予防法に基づき、移動制限区域（発生農場の半径3km以内の区域）及び搬出制限区域（発生農場の半径3kmから10kmまでの区域）を設定しました。

（2）和歌山県は、同県白浜町で確認された高病原性鳥インフルエンザに関し、令和4年11月23日0時に発生施設の半径3kmから10km以内の区域について設定している搬出制限を解除しました。

（3）今般、和歌山県は、国内8例目の移動制限区域について、全ての発生施設の防疫措置が完了した令和4年11月12日の翌日から起算して21日が経過する令和4年12月4日（日曜日）午前0時（12月3日（土曜日）24時）をもって、当該移動制限を解除しました。

**■***NEW***和歌山県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内21例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について　2022/12/5**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221205_1.html>

　　和歌山県和歌山市で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内21例目）について、動物衛生研究部門が実施した遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることが確認されました。

また、当該高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

.概要

（1）和歌山県和歌山市の農場で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内21例目11月30日疑似患畜確定)について、動物衛生研究部門（注）が実施した遺伝子解析の結果高病原性と判断される配列が確認されました。

（2）これを受け、農林水産省は、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、当該家きんを高病原性鳥インフルエンザの患畜と判定しました。

（3）また、当該高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、動物衛生研究部門における検査の結果、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

**■***NEW***鳥取県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内22例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について　2022/12/5**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221205.html>

　　鳥取県鳥取市で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内22例目）について、動物衛生研究部門が実施した遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることが確認されました。

また、当該高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

1.概要

（1）鳥取県鳥取市の農場で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内22例目、12月1日疑似患畜確定)について、動物衛生研究部門（注）が実施した遺伝子解析の結果、高病原性と判断される配列が確認されました。

（2）これを受け、農林水産省は、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、当該家きんを高病原性鳥インフルエンザの患畜と判定しました。

（3）また、当該高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、動物衛生研究部門における検査の結果、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

**■***NEW***愛知県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について　2022/12/5**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221205_2.html>

　　本日（12月5日（月曜日））、愛知県豊橋市の家きん農場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（今シーズン国内25例目）が確認されました。

当該農場は、農家から通報があった時点から飼養家きん等の移動を自粛しています。

なお、我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考えております。

現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあること、農家の方のプライバシーを侵害しかねないことから、厳に慎むよう御協力をお願いいたします。

1.農場の概要

所在地：愛知県豊橋市

飼養状況：約31万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月4日（日曜日））愛知県は、同県豊橋市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、当該農場に対し移動の自粛を要請するとともに農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該鶏について鳥インフルエンザの簡易検査を実施し陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月5日（月曜日））、当該鶏について遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***鹿児島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/12/4**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221204.html>

　　本日（12月4日（日曜日））、鹿児島県出水市の家きん農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内24例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定しました。

1.農場の概要

所在地：鹿児島県出水市

飼養状況：約3.4万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月3日（土曜日））、鹿児島県は、同県出水市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該家きんについて鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月4日（日曜日））、当該家きんについて遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**■***NEW***福島県で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内20例目）の遺伝子解析及びNA亜型の確定について　2022/12/2**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221202.html>

　　福島県伊達市で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内20例目）について、動物衛生研究部門が実施した遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることが確認されました。

また、当該高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

1.概要

（1）福島県伊達市の農場で確認された高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜（国内20例目、11月29日疑似患畜確定)について、動物衛生研究部門（注）が実施した遺伝子解析の結果高病原性と判断される配列が確認されました。

（2）これを受け、農林水産省は、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、当該家きんを高病原性鳥インフルエンザの患畜と判定しました。

（3）また、当該高病原性鳥インフルエンザウイルスについて、動物衛生研究部門における検査の結果、NA亜型が判明し、H5N1亜型であることが確認されました。

**■***NEW***全国の野生鳥獣による農作物被害状況について（令和3年度）　2022/12/2**

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/tyozyu/221202.html>

　　農林水産省は、令和3年度の野生鳥獣による農作物被害状況について、都道府県からの報告を基に、全国の被害状況を取りまとめました。（都道府県は、市町村からの報告を基に把握を行っています。）

被害状況の概要

1．令和3年度の野生鳥獣による全国の農作物被害は約155億円（対前年度約▲5.9億円）、被害面積は約3万3千haで（同▲1万ha）、被害量は約46万2千t（同＋2千t）です。

2．主要な鳥獣種類別の被害金額については、イノシシ（被害額39億円、対前年度▲6.4億円）サル（同8億円、同▲1.0億円）、カラス（同13億円、同▲0.7億円）で減少する一方、シカの被害は増加（同61億円、同＋4.6億円）しています。

添付資料

全国の野生鳥獣による農作物被害状況（令和3年度）(PDF : 50KB)

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/tyozyu/attach/pdf/221202-1.pdf>

野生鳥獣による農作物被害の推移（鳥獣種類別）(PDF : 58KB)

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/tyozyu/attach/pdf/221202-2.pdf>

お問合せ先

農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課　担当者：福田、堀澤

代表：03-3502-8111（内線5501）　ダイヤルイン：03-6744-7642

**■***NEW***鹿児島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認及び「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」の持ち回り開催について　2022/12/2**

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/221202_2.html>

本日（12月2日（金曜日））、鹿児島県出水市の家きん農場において、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認（今シーズン国内23例目）されました。

これを受け、農林水産省は、「農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針について決定しました。

1.農場の概要

所在地：鹿児島県出水市

飼養状況：約12万羽（採卵鶏）

2.経緯

（1）昨日（12月1日（木曜日））、鹿児島県は、同県出水市の農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受けて、農場への立入検査を実施しました。

（2）同日、当該家きんについて鳥インフルエンザの簡易検査を実施したところ陽性であることが判明しました。

（3）本日（12月2日（金曜日））、当該家きんについて遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認しました。

**５.****[消費者庁関連](#消費者庁関連)**

<https://www.caa.go.jp/>

**「消費者庁」になりすましたTwitter、Facebookアカウントにご注意ください。**

**■***NEW***第4回食物アレルギー表示に関するアドバイザー会議の開催について　2022/12/8**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/031320/>

　1.趣旨

アレルギー症状を有する方にとって食物アレルギー表示は、非常に重要なものである。近年のくるみによる食物アレルギーの症例数の急増を受け、くるみのアレルギー表示の義務化に向けた取組が喫緊の課題となっている。

この取組を含め食物アレルギー表示制度の適切な運用を図るためには、医学、分子生物学等の専門家の知見が不可欠であることから、今般、消費者庁において、専門家による「食物アレルギー表示に関するアドバイザー会議」を開催する。

2.構成員　別紙のとおり。

3.第4回会議の開催について

(1)日時　令和4年12月14日(水)17:00～19:00

(2)場所　中央合同庁舎第4号館1階 共用108会議室　(ウェブ会議によるオンライン開催)

(3)議題

くるみの義務表示化に向けた検討状況等について

その他

公表資料

食物アレルギー表示に関するアドバイザー会議の開催について[PDF:294.9 KB]

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/food_labeling_cms204_221214_01.pdf>

**関連リンク**

**食物アレルギー表示に関するアドバイザー会議**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/meeting_materials/review_meeting_005/>

**■***NEW***令和4年度食品衛生法等の表示に係る夏期一斉取締り結果について　2022/12/2**

夏期一斉取締り結果について [PDF:169KB]

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/assets/representation_cms214_221202_01.pdf>

令和4年度夏期(総括)一斉取締り結果 [PDF:247KB]

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/assets/representation_cms214_221202_02.pdf>

**■「特定商取引に関する法律施行令及び預託等取引に関する法律施行令の一部を改正する政令(案)」等に関する意見募集について　2022/11/30**

<https://www.caa.go.jp/notice/entry/031328/>

<https://www.caa.go.jp/notice/assets/consumer_transaction_cms202_221130_01.pdf>

　2022/11/30　～　2022/12/29　必着

**■インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について（令和４年７月～９月）　2022/11/28**

<https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms214_221128_01.pdf>

**消費者庁リコール情報サイト**<https://www.recall.caa.go.jp/>

**（回収中か否かに関わらず、だいたい一回の掲載で消去します）**

**★ファーストフーズ福島「手巻寿司 ねぎとろわさび（青まぜ）」 - 返金／回収　アレルゲン「さば・りんご・ゼラチン」の表示欠落（一部製品に誤ってシーチキンを使用）　2022/12/8**

**★milco sweets「飴色玉ねぎとカボチャのお食事系マフィン、ほか5商品」 - 返金／回収　賞味期限表示の欠落　2022/12/8**

**★吉田ふるさと村「やわらか大山おこわ」 - 返金／回収　加熱不足による汚染　2022/12/8**

**★イオンリテール（イオン大井店）「生かき（宮城県産大粒かき　生食用）」 - その他　細菌数が基準値を超えていることが判明　2022/12/8**

**★名水美人ファクトリー「名水美人ミックス野菜 創味シャンタンたれ入り220g」 - 回収　商品に同封されている「創味シャンタンたれ」について、賞味期限切れのものが一部混入していたため　2022/12/7**

**★山崎製パン「チョコバナナクレープ」 - 返金／回収　アレルゲン「ゼラチン」の表示欠落　2022/12/7**

**★アスナ「大根おろし、薬味ミックス」 - 返金／回収　消費期限の誤表示（①誤：2022.12.10、正：2022.12.04、②誤：2022.12.09、正：2022.12.03）　2022/12/7**

**★石見食品「外国産大豆を使用した豆腐、厚揚げ」 - 返金／回収　いつもとちがう臭いがするため　2022/12/7**

**★福島さくら農業協同組合「白菜」 - 回収　残留農薬（ ピロキロン、チアメトキサム）の基準値超過　2022/12/6**

**★オリエンタルベーカリー「ハムマヨパニーニ」 - 返金／回収　消費期限表示の誤表示（誤：22.12.08、正：22.12.07）　2022/12/6**

**★生友商事「野菜つけ物：白菜塩漬（生友 酸菜）」 - 回収命令　デヒドロ酢酸0.32g/kgが検出されたため　2022/12/6**

**★都吹「とろ～り豆腐、おぼろどうふ」 - 交換／返金　消費期限の誤表示（誤：22.112.8、正：22.12.8）　2022/12/6**

**★プレス・オールターナティブ「カレーの壺　ほくっとひよこ豆カレー 辛さ控えめ 180g」 - 返金／回収　石（炭酸カルシウム）混入のおそれがあるため　2022/12/5**

**★ネスレ日本「ネスレ ミロ サンドイッチ」 - 返金／回収　指定外添加物であるTBHQが2μg/g検出されたため　2022/12/5**

**★青木兄弟加工所「鯛ちくわ」 - 返金／回収　大腸菌群陽性　2022/12/5**

**★ビーアンドエヌ「もちもちキャラメル」 - 返金／回収　アレルゲン「乳製品」の表示欠落　2022/12/5**

**★マックスバリュ西日本（マルナカ徳島店）「アジフライ（長崎県産原料使用）」 - 回収　アレルゲン「卵」の表示欠落、消費期限の誤表示（誤：22.12.5、正：22.12.3）　2022/12/5**

**★村田蒲鉾店「のどぐろフライ、えびカツ、たこカツ」 - 返金／回収　カビによる汚染　2022/12/2**

**★HOA MAI「冷凍養殖食用がえる」 - 回収命令　エンロフロキサシン（0.04ppm）、フラゾリドン（0.008ppm）を検出　2022/12/2**

**★ハマナカ産商「活生かき（活生かき極、活生かき播州相生産）」 - 回収命令　規格基準(50,000/g)を超える細菌数(140,000/g及び150,000/g）を検出　2022/12/1**

**★ジョイマート「旨味溶け込む牛すき焼き鍋」 - 返金／回収　アレルゲン「乳成分」の表示欠落　2022/12/1**

**★イータリー・アジア・パシフィック「パネットーネ クレーマ ピスタチオ」 - 返金／回収　カビによる汚染の可能性　2022/12/1**

**６.** **[食中毒・感染症](#食中毒・感染症)**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/8068a715873c6ec58e1b8a24b767bfef42745261>

**■***NEW***インフルエンザ（総合ページ）**

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html>

**★細菌性食中毒★**

**■便からカンピロバクター…個室居酒屋で食事した20-30代男女4人が下痢や腹痛 店を営業停止に　12/5(月) 19:55配信　石川テレビ　石川県小松市**

**カンピロバクター**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/89d5010e56e83f6f036cf2e5270bcd05102a4fec>

**■高知市の飲食店で客７人が食中毒 ３日間の営業停止処分に**

**12月03日　14時01分　高知　NEWS WEB　高知県高知市**

**カンピロバクター**

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kochi/20221203/8010016451.html>

**■入居者13人に下痢や腹痛　ウエルシュ菌検出　船橋、サ高住で食中毒**

**12/3(土) 12:00配信　千葉日報****千葉県船橋市**

**ウエルシュ菌**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/9d152015b0d68c70cd7447610cb2e1318b61539c>

**食中毒の発生について（令和4年12月2日）　千葉県船橋市**

**ウエルシュ菌**

<https://www.city.funabashi.lg.jp/kenkou/eisei/001/p105822.html>

探知

令和4年11月25日（金曜日）、市内サービス付き高齢者向け住宅の管理者から「11月24日（木曜日）21時頃から今朝にかけて、入居者33人中13人が下痢、腹痛症状を呈していたため、食中毒を疑い届け出た。職員に体調不良者はいない。」旨の連絡があり、船橋市保健所衛生指導課が調査を開始した。

概要

調査の結果、当該施設の入居者33人中13人が、11月24日（木曜日）21時から翌朝6時にかけて下痢、腹痛の食中毒症状を呈していた。

発症者の共通喫食が当該施設での食事に限られること、発症者の便からウエルシュ菌が検出されたこと、発症者の症状がウエルシュ菌による症状と一致することから、船橋市保健所長は当該サービス付き高齢者向け住宅の給食施設を原因施設とする食中毒と断定し、当該給食施設の営業停止処分を行った。

なお、患者は全員回復している。

喫食者数　入居者33人、調理従事者5人

発症者数　入居者13人（内訳は以下のとおり）

60代　男性0人　女性1人

70代　男性1人　女性3人

80代　男性2人　女性6人

主な症状　下痢、腹痛

発症年月日　令和4年11月24日（木曜日）

原因施設

所在地：船橋市

屋　号：らいおんハートホスピスホーム船橋

業　種：飲食店営業(業態：集団給食)

原因食品　当該施設で11月24日（木曜日）に提供された食事

検査　発症者便：11検体のうち4検体ウエルシュ菌陽性　1検体陰性

6検体検査中

調理従事者便（11月24日勤務者）：5検体すべて陰性

食品（11月24日（木曜日）に提供された食事の保存検食）：21検体検査中

病因物質　ウエルシュ菌

行政措置　営業停止3日間

　令和4年12月2日（金曜日）から令和4年12月4日（日曜日）まで

船橋市における食中毒発生状況

令和4年度　発生件数 8件、患者 139人（＊本件を含まず）

令和3年度　発生件数 1件、患者 3人

令和2年度　発生件数 5件、患者 5人

**★ウイルスによる食中毒★**

**■**

**★寄生虫による食中毒★**

**■次のとおり食中毒（疑い）が発生したので発表します。　2022/12/7　福岡県田川市**

**アニサキス**

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/press-release/syokuchudoku20221207.html>

　１　事件の探知

　令和４年１２月５日（月）、飯塚市の医療機関から、食中毒様症状を呈した田川市の患者を診察し、胃アニサキス症と診断した旨、嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所に届出があった。

２　概要

　患者の住所を所管する田川保健福祉事務所が調査したところ、１２月４日（日）に友人が釣って調理したサバ漬け等を自宅で喫食し、同日午後１１時頃から食中毒症状を呈していることが判明し た。

　現在、同事務所において、食中毒疑いとして調査を進めている。

３　発生日時　調査中　判明分：令和４年１２月４日（日）午後１１時頃

４　摂食者数　調査中　判明分：２名

５　症状　調査中　判明分：腹痛、吐気

６　有症者数　調査中　判明分：１名（３０代男性）

医療機関を受診しているが、入院はしていない。

重篤な症状は呈しておらず、ほぼ回復している。

７　原因施設、原因食品、病因物質

　　（１）原因施設：調査中

　（２）原因食品：調査中

　（３）原因物質：アニサキス

８　その他

〈参考〉県下における食中毒の発生状況（１２月７日時点。調査中の事件を除く。）

テーブル

自動的に生成された説明

**■不利益処分等のお知らせ　2022/12/6　港区**

**アニサキス**

<https://www.city.minato.tokyo.jp/shokuhinkanshi1/kurashi/shokuhin/anzen/kyoka.html>

　公表年月日　令和4年12月6日

業種等　飲食店営業（\*注1）

施設の名称及び施設の所在地

施設の名称　ヒカリモノ

施設の所在地　東京都港区

不利益処分等を行った理由　食中毒の発生

原因食品　令和4年11月24日に調理し、提供した寿司を含むコース料理

原因物質　アニサキス

主な適用条項

　食品衛生法第6条第3号の規定に違反するので改正前同法第55条第1項（\*注2）を適用

不利益処分等の内容及び停止を命令する営業の内容

不利益処分の内容　令和4年12月6日（1日間）の営業の一部停止命令

停止を命令する営業の内容　生食用鮮魚介類(冷凍品を除く。)の調理、提供。

なお、冷凍品とは-20℃以下で24時間以上の冷凍をしたものをいう。

備考

公表時の患者数：1名

アニサキスは海産哺乳動物を終宿主とする寄生虫です。サバ、イワシ、アジ、サンマ、スルメイカ等の魚介類には幼虫のままで寄生します。アニサキス症はアニサキスが寄生した魚介類を生食することにより感染し、多くが8時間以内に激しい腹痛や吐き気、嘔吐等の症状を引き起こします。アニサキスは酢やわさび、しょうゆでは死にませんが、-20℃で24時間以上の冷凍又は加熱により食中毒を防ぐことができます。

(\*注1)令和元年政令第123号の附則第2条の規定により、なお従前の例による営業

(\*注2)平成30年法律第46号の第2条の規定による改正前の食品衛生法

**■渋谷区が飲食店営業施設などに対して行った不利益処分など　2022/12/3　渋谷区**

**アニサキス**

<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kurashi/kenko/shokuhin/ihan_kohyo.html>

　公表年月日　令和4年12月3日

施設の業種　飲食店営業（注）

施設の名称　魚まみれ　眞吉

施設所在地　東京都渋谷区

処分の根拠条項　食品衛生法第6条第3号

処分を行った理由　食中毒の発生

処分などの内容　令和4年12月4日の1日間営業停止

病因物質・原因食品など　病因物質：アニサキス

原因食品：刺身の盛り合わせ

**■鮮魚店のシメサバ食べて腹痛　胃から″アニサキス”見つかる　宮城・****山元町**

**12/3(土) 16:53配信　tbc東北放送　宮城県山元町**

**アニサキス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/033d1b572c8cc74970573447178823148672fd1d>

**食中毒の発生について　2022/12/3　宮城県山元町**

**アニサキス**

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/43216/anisakisusyokutyuudoku.pdf>

［事件の概要］

１２月２日（金）午後０時４０分頃，福島県から「福島県内の医療機関から相双保健所に内視鏡検査で患者１名（宮城県在住）の胃からアニサキス虫体を摘出したと連絡があった」旨，宮城県に通報があった。

塩釜保健所岩沼支所で調査したところ，当該患者は，１２月１日（木）午後８時頃に山元町内の魚介類販売店「丸長魚店」で購入したシメサバ等を喫食し，同月２日（金）午前４時３０分頃から腹痛を呈していたことが判明した。

同支所は，医療機関で患者からアニサキスが摘出され，診察した医師から食中毒患者等届出があったこと，患者の症状及び潜伏期間が胃アニサキス症のそれと矛盾しないこと，原因と考えられる食品が当該店舗で販売されたシメサバのみであることから，このシメサバを原因とする食中毒と断定した。

なお，患者は快方に向かっている。

　患者関係

発 症 日 時 １２月２日（金）午前４時３０分頃

主 な 症 状 腹痛

患 者 数 １名（４０代 男性）

受 診 者 数 １名

入 院 者 数 ０名

診療医療機関 福島県内の医療機関

原因食品 シメサバ

病因物質 アニサキス

原因施設

所在地：亘理郡山元町

屋 号:丸長魚店（まるちょううおてん）

業 種：魚介類販売業

措 置 １２月３日営業の一部停止１日間（生食用鮮魚介類（冷凍品を除く）の取扱い）

担当保健所 塩釜保健所岩沼支所

※１２月１日夕食の喫食メニュー　シメサバ・ 茹でタコ ・ カレーライス ・ 味噌汁

(参考）宮城県における食中毒の発生状況[本件含まず（ ）内仙台市分再掲]



**★自然毒による食中毒★**

**■**

**★化学物質による食中毒★**

**■**

**★細菌による感染症★**

**■**

**★ウイルスによる感染症★**

**■園児計75人が感染性胃腸炎　千葉・船橋の2保育園　サポウイルス、嘔吐や下痢訴え**

**12/2(金) 18:00配信　千葉日報オンライン****千葉県船橋市**

**感染症　サポウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/513a01cdee94ac0a8a912e95c59d7a378fb94758>

**サポウイルスによる感染性胃腸炎の集団感染について　更新日：令和4(2022)年12月2日　千葉県船橋市**

**感染症　サポウイルス**

<https://www.city.funabashi.lg.jp/kenkou/kansenshou/001/p110830.html>

サポウイルスによる感染性胃腸炎の集団感染について

　船橋市保健所管内の2園の保育園で今季初の感染性胃腸炎の集団感染を確認しましたので、感染予防及び注意喚起の観点から、下記のとおりお知らせします。

　市保健所では引き続き健康調査を実施し、患者は全員快方に向かっており、重症者はいません。

　感染性胃腸炎は、通年で発生していますが、特に冬場から春先にかけて多く発生しますので、感染対策を徹底し継続することが重要です。

事例〈経過〉

11月24日（木曜日）

17時、A保育園より「11月17日から24日までに、嘔吐・下痢症状を呈する園児が17名発生している。」との連絡があった。市保健所では、当該施設に対し、消毒等の衛生管理及び感染対策について指導し、経過観察を開始した。

11月25日（金曜日）

11時、B保育園より「11月19日から25日までに、嘔吐・下痢症状を呈する園児が17名発生している。」との連絡があった。

同日、保健所職員が2保育園に出向き、関係者に対し調査を実施し、園児への便検査の協力を依頼するとともに、改めて現地にて衛生管理について指導した。

11月28日（月曜日）

A保育園での発症者が31名、B保育園での発症者が32名となる。

11月30日（水曜日）

市保健所における各保育園の有症状者5名の検査の結果、A保育園5名中3名から、B保育園5名中5名からサポウイルスが検出された。このことから、サポウイルスを原因とする感染性胃腸炎であると判断した。

12月1日（木曜日）

胃腸炎症状を呈した園児がA保育園累計40名（園児40名）、B保育園累計35名（園児35名）となり、感染性胃腸炎の集団感染を確認した。

**■【ノロウイルス】****広島県安芸高田市で今シーズン初の集団感染**

**12/1(木) 20:25配信　広島テレビ　ニュース　広島県安芸高田市**

**感染症　ノロウイルス**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7b4b73860e8297fdf362f423487e89548d51704e>

**★その他の感染症★**

**■**

**★違反食品★**

**■道発表資料　違反食品の回収について　2022/11/30　大阪市**

**抗菌性物質であるエンロフロキサシン及びフラゾリドンが検出**

<https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kenko/0000585832.html>

　　令和4年11月30日（水曜日）、厚生労働省から「東京検疫所が実施したモニタリング検査の結果、ベトナム産の冷凍養殖食用カエルから食品衛生法において食品に含まれてはならないとされる抗菌性物質であるエンロフロキサシン及びフラゾリドンが検出され、食品衛生法第13条第2項に違反する。」との連絡がありました。

　　直ちに大阪市保健所が調査したところ、当該品は「HOA　MAI（ホア　マイ）株式会社（大阪市）」が令和4年11月5日（土曜日）にベトナムから輸入したもので、一部販売されていたことが確認されたことから、令和4年11月30日（水曜日）、大阪市保健所長が輸入者に対して当該食品の回収を命じました。

1　違反者（輸入者）

HOA MAI（ホア　マイ）株式会社　代表取締役　グェン・チャン・ドゥック・ミン

大阪市北区西天満4丁目4番18号

　2　違反品（回収命令対象品）

商品名：冷凍カエルの足

形態：合成樹脂製袋詰

内容量：500グラム

賞味期限：2024年10月24日

原産国名：ベトナム

3　違反内容　食品衛生法第13条第2項違反

　食品一般の成分規格（食品は、抗生物質又は科学的合成品たる抗菌性物質を含むものであってはならない。）に適合しないため。

（エンロフロキサシン0.04ピーピーエム、フラゾリドン（AOZとして）0.008ピーピーエム検出）

（注）AOZ（3-アミノ-2-オキサゾリドン）とはフラゾリドンの代謝物です。

4　輸入及び流通状況

輸入届出年月日　令和4年11月2日

輸入量　839カートン（1カートン10キログラム、1袋500グラムの20袋入り）

流通状況

一次販売先は次のとおり

一次販売先の流通状況

一次販売先（府県） 販売先数（社） 販売先（カートン）

埼玉県 　　　　　2 　　　　　　456

5　健康被害の情報

　　現在のところ健康被害に関する情報は寄せられていません。

　　当該食品を購入し、保管している場合には食べないようにしてください。

**★その他関連ニュース★**

**■【感染症情報】感染性胃腸炎報告数が減少に転じる - 手足口病は11週連続で減少**

**12/6(火) 12:55配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/37a5ace30eb95fb13986387d3c4f9a203e1249d3>

**■タイニン省：校門前の移動販売店でスシを食べた生徒らが食中毒疑いで入院**

**2022/12/05 03:07 JST配信　ベトナム**

<https://www.viet-jo.com/news/sanmen/221202120751.html>

**■インフル患者報告535人、コロナ流行前の3.5％ - 厚労省が状況公表、11月21－27日の1週間　12/2(金) 19:55配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/85ab22958b84eae108fa92a5c79bc608ff599c54>

**■東京の新規陽性者数、4週間後には1.94倍に - モニタリング会議の専門家コメント・意見**

**12/1(木) 18:40配信****医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d6ea45bfc58866092311fc06f3d6a3bd571a89ea>

**■病床使用率、感染者多い地域などで5割上回る - 厚労省がコロナアドバイザリーボードの分析公表　12/1(木) 17:40配信　医療介護ＣＢニュース**

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d41911533b709f29d7b2b3958dada63439826ae2>